

アロハシャツ、Tシャツ、スポサン、便利グッズetc... 夏旅持ち物リスト、チェック・ワン・ツー。

THE DAY

SUMMER TRAVEL STYLE

オンライン2017年7月号 雑誌別冊 THE DAY No.23 2017年5月24日発行

2017 EARLY SUMMER ISSUE No.23

夏服と、旅の準備。 *ready for the trip*

夏旅スタイルカタログ

アロハシャツとTシャツとショートパンツと
サンダルとサングラスとバッグ。

クリエイターの旅事情 featuring

野村訓市 / 山根敏史 / 志津野 雷 /

Naoki "SAND" Yamamoto / 竹村 卓

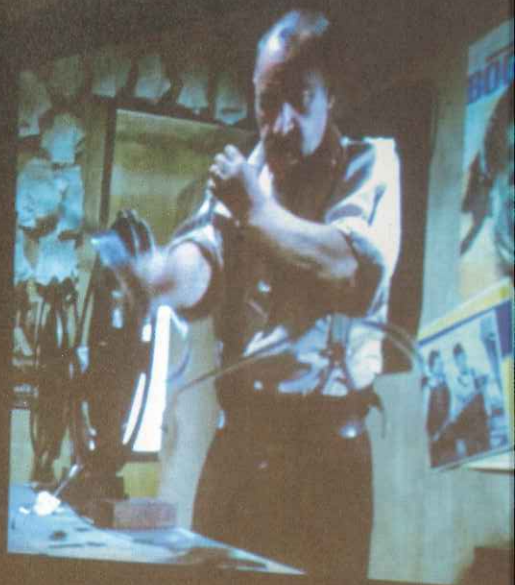
コーヒースタンド、ドライビング、ランドリーetc...
旅のチャージスポット巡り

この夏泊まりたい、ホテルリスト、とか……。

第二特集

こだわり派クリエイター8名の
一生使いたいモノ、手に入れたい名品カタログ





とある部屋で

第八回 ベッドタイム・ストーリーを 眺めた彼は、安心して眠った。

styling | Shinya Endo photography | Kenji Nakata story | Mayu Sakazaki

シグネベッド ¥59,800 (ウニコ/ウニコ代官山 ¥03-3417-2205)、レーザーファブリッククッション ¥10,000 (アクメファニチャー)、タオル ¥7,500 (スノ&モリゾン)、ワイヤークラウン ¥4,677,000 (アクメファニチャー)、ウォータリングカン ¥1,400 (ウィンタージョーヒー ¥2,000、扇風機 参考商品 (GEI)、ウエストバスケット ¥4,500 (すべてアクメファニチャー 03-5728-5355)、クリップランプ ¥7,500、インダストリアルランプ ¥33,000、オランダポストバッグ ¥1,400、ワイヤークラウン ¥4,677,000 (ガゼル/すべてクスクスファニチャー 03-3417-2530)、ドリーミオプロジェクター EH-TW6700W オープン格 (エプソン/エプソンインフォメーションセンター 03-550-7010)、サイドテーブルスクエア (S) ¥30,240 (パンフインニチャー・サービス)、ランドリーカートシンクルール ¥32,400、ランケット (L) ¥37,000 (メリン・トレグウィント、パンフインニチャー・サービス 03-3710-9865)



部屋を見れば、その人の大事にしてい...
のがわかる。「シアタールーム」の主...
エプソンのホームプロジェクター。鮮やか...
画質、スクリーンがなくても壁に投影す...
けで、大画面で映像を楽しむことができ...

どこかシネマチックなヴィンテージ自転車は、
オランダ王室御用ブランドである〈ガゼ
ル〉のもの。「自転車のロールスロイス」なん
て呼ばれつつ、乗り味は軽快で楽しく乗り降
りも楽。フレームは職人によるハンドメイド。

シンプルだけれど丸みのあるディテールが
暖かな印象のベッド。ファブリックによっ
てさまざまなスタイルを楽しめるほか、ベッ
ドボックスを買えば収納としても使える。寝
ころがりながらコメディ映画を観るのも最高。

シェードの重厚さとフレームの華奢さがアン
バランスながら愛らしいフォルムのフロアラ
ンプ。煌々とした明かりは物語の余韻を一瞬
で消し去ってしまうので、夜はこれ一灯くら
いがいい。小さな椰子は乾いた部屋の癒し。

椅子とテーブルの関係性がうまくいくと、部
屋に雰囲気が出る。映画を観るのにちょうど
いい一人がけのラウンジチェアには、どんな
シーンにも使い勝手のいい真四角のサイド
テーブルがぴったりとはまってくる。

こ

の時間だけが、僕の生きるす
べてなんだ。この部屋にいな
いあいの僕は、影のようなもの
なんだよ」。その人は、少し笑いな
がら、自分自身を茶化すようにそ
う言った。4年ほど前の、ほんの少
しの間だけ、私は彼と一緒に暮らし
ていた。それが恋人だったのか、友
達だったのか、二人の間にはっきり
とした取り決めはなかったと思う。
べつに暖味でロマンティックな雰囲
気にひたっていたわけじゃなくて、決
めてしまうことで、「一緒にいること
に興味を持たせてしまうのが何と
なく煩わしい、というくらいに関
係。今思うとただ単に、お互いに
お互いを重ねていただけなのかも
しれない。「世の中には自分以外に
も、自分のような人間がいるんだ
な」と思うことは、あるとき私た
ちに奇妙な安心感を与えてくれた
から。

く、海外のちよっと笑えるニュース
とか、短いコラムを日本語にして
ウェブにアップするだけ。数をこな
せばそれなりの金額になったので、
そんなことをしながらのんびりと
暮らしていた。彼はというと、私
と違って毎日早い時間から出勤す
るタイプ。朝7時くらいに家を出
て、帰ってくるのは夕方6時か
ら7時の間。仕事が終わると駅前
にあるレンタルショップで映画の
DVDを二本、かならず借りてく
る。これは毎日の習慣というか常
備薬というか、とにかく彼という
人間にとって、なくてはならない
ものだった。夕食を済ませた後に
念入りにコーヒーを淹れ、ポップ
コーンとかポテトチップスとかチョコ
チップクッキーとか、そういうた
ちのお菓子をを用意する。定められ
た儀式のように丁寧に準備を進め
る姿が可笑しくて、私はベッドに腰
かけてその一連を眺めるのが好き
だった。すべてが滞りなく整い、プ
レイヤーに映画のDVDを入れた
とき、彼がつぶやいた。

「この時間だけが、僕の生きる
すべてなんだ。この部屋にいな
いあいの僕は、影のようなものな
だよ」。何か返そうと考えている
うちに、物語がはじまった。
一緒に暮らしていたけれど、その
部屋は彼の世界だった。まったく
少しの隙間もなく、彼の部屋だっ
た。名前をつけるとしたら、「シア
ター・ルーム」以外にない。と言っ
ても、リビングとかベッドルームが
他にあるわけじゃなくて、少し広め
のワンルーム。そこに大きなスク
リーンが垂れ下がり、少し間隔を
空けてベッドが置いてある。言っ
てみれば、シアター・ルームに無理や
りベッドを置いて暮らしている感じ。
日当たりの良い場所には、小さな
椰子が置かれていた。外がすっか
り暗くなると、まるで両親に読
み聞かせてもらうベッドタイム・
ストーリーのように、眠る前の
2時間ほどを映画に費やす。それ
が、彼のすべて。

人生に突然、彗星のように何か
起こるのをじっと待っているよう
にも見えた。けれど、少なくとも私
と過ごしている間は、特別なこと
は起きなかった。ただ毎日一緒に
映画を観ただけ。つまらなかったら
「ハズレだね」とおもしろかったら
「良かったね」と言い合うだけ。
好みが変わったときは、お互いに
「分かってないなあ」と見下しあっ
て、笑った。
ある時期を境にして、私は翻訳
の仕事が忙しくなり、一緒に映画
を観る時間が取れなくなった。彼
を付き合わせるのはいやらしいと思
い、上映の間はイヤフォンをして仕事
をした。でも、徐々にシアター・
ルームで仕事をするの自体が
不便になっていった、ある年の春。
部屋を出ていくことを決め、彼
に別れを告げた。約束のない二人
だった。それはごく自然なこ
とだった。「最後に一本だけ、一緒
に観よう」。そう言われて観たの
は、「ニュー・シネマ・パラダイス」。
きつと、あの人は今夜も小さな楽
園のなかでひとり、物語がはじま
るのを待っている。

REISM



「base」と名づけられたこの部屋は、REISMの
リノベーション賃貸シリーズのひとつ。ダメ
ジ加工を施した無垢仕上げのフローリング、
扉や棚に使用したベニヤ素材、ラフな壁周り
など、無骨ながらもスタイリッシュな仕上がり。

「とある部屋」を用意してくれたREISM (リ
ズム) は、都心で働く20~30代の「スタイ
ルのある」シングル向けリノベーションル
ームを提案するライフスタイルブランド。あたら
しい暮らしに出会える。www.re-ism.jp